

協議事項 (2) 諮問に対する答申について 議論の要点まとめ

●地域学校協働本部・コミュニティスクールについて

- ・地域学習館が「学社一体」においてどういう役割を果たしていくかを考えるとき、「地域学校協働本部事業」や「学校支援ボランティア」またそれを支えるコーディネーター（推進員）が切り口になるのではないか
- ・地域学習館は、地域学校協働本部にどこにも位置付いていない。コーディネーターの主な活動にも地域学習館は出てこない
- ・コーディネーターの活動に地域学習館や地運協が関わっていく、という答申の可能性
- ・コーディネーターに地域学習館を知ってもらったり、地域学習館への要望を伝えてもらったりすることが必要
- ・地域学校協働本部の中に地域学習館や児童館の人が入っていて、学校と顔が繋がっていれば可能になることもある
- ・まずは地域学校協働本部とコミュニティスクールの関係について整理しなければならないのではないかと

●学校が何を必要としていると思うかについて

- ・そもそも何が学校で困っていて、何が求められるのかが分からない
- ・学校と直接やりとりする機会がない。教師と地運協委員が話し合う場が必要
- ・先生方の負担軽減について学校が求めていることを校長に聞き取ったところ、授業がスムーズに成り立つことが一番だということだった。すなわち、学校は地域の人々と関わることによって子どもたちが「発散してくる」ことに期待しているとのこと

●地域学習館ならではの強みについて

- ・錦学習館には調理設備があるので、それをきっかけに子どもたちと一緒に料理を作ることができる
- ・世代間交流ができることや、色々な人が関わること
- ・学習館は学習館の機能を発揮することも役割として重要
- ・学習等供用施設の方が地域の中心になっていて、学習館は使いにくいという意見も。使いにくさをどう解消するか

●「学社一体」について

- ・学校側の敷居の高さ。学校教育と社会教育の間の垣根
- ・地域学習館と学校という組織同士で成り立つ信頼関係を築くことが大切
- ・地運協に学校関係者や保護者等に入っていただくのが、密な関係を築く上では大事ではないか。（青少健には入っている）
- ・短期的に考えるのではなく、10 年後、20 年後に地域が持続可能かどうかという視点で「学社一体」を考えた方がよいのではないかと
- ・「学社一体」についてまず基本的な理解がされないと議論にならない
- ・やらされ感があるような形で進めるのはよくない
- ・市民交流大学が、学習館と学校、学習館とコーディネーターの横串を繋ぐものとして機能を発揮するかもしれない